

# ひょうごの遺跡

平成18年  
3月31日発行

59号

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-5 TEL 078(531)7011 FAX 078(531)7014

ホームページアドレス <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

## 特集 平成17年度の発掘調査遺跡

平成17年度中に兵庫県教育委員会がおこなった発掘調査のうち、前号で紹介した坂元遺跡・神野大林窯跡以外の遺跡について、九蔵遺跡（南あわじ市）を中心に10遺跡を紹介します。各遺跡の所在地は、北から朝来市・篠山市・宍粟市・姫路市・加古川市・尼崎市・南あわじ市と広範囲にわたり、但馬・丹波・播磨・摂津・淡路と兵庫県下の旧五国全域にまたがっています。

谷の奥にある階段状古墳群

うち たか やま にし

### 内高山西古墳群

朝来市和田山町岡



東にのびる尾根上の古墳群

古墳群は和田山市街と竹田城のほぼ中間にある大倉部山（標高691m）北側の谷にあり、尾根上からは遠くに和田山平野や山東盆地を望むことができます。

発掘調査は7基の古墳について行いました。古墳群の中で最大規模の4号墳では、長さは4m以上もある長大な棺の痕跡を2基検出しています。これらの棺の底や上には小石を敷いているのが確認できました。

他の古墳でも棺内に小石を敷くものがあります。遺物はわずしか出土しませんでした。出土した鉄剣の形態などから、古墳は4世紀代に造られたと推定しています。



4号墳の長い棺の痕跡(2基)



6号墳の棺内出土鉄剣

## 大前方後円墳の周庭帯

くも べ くるま づか  
雲部車塚古墳

篠山市東本庄

陵墓参考地「雲部車塚古墳」は、古墳時代中期後半に築造された全長約140mの前方後円墳で、兵庫県下では第2位の規模を誇ります。調査は県道篠山丹波線の歩道設置に伴い実施し、車塚古墳の南陪塚と濠の間から、幅



濠と並行する溝

約3.2～3.5m・深さ約30cmの溝が長さ約40mに渡って検出されました。濠とは約12mの間隔で並行し、車塚古墳の周庭帯の外縁とされている地割に連続することから、溝は周庭帯の外側を区画するものと思われます。溝内からは埴輪や土師器・鉄斧が出土しました。埴輪類は周堤に部分的に立てられていたものと思われます。



調査区全景



検出された溝と濠堤

くま づか つば  
弥生の墓地

## 車塚の坪遺跡

篠山市東本庄

雲部車塚古墳の下や周辺に広がる遺跡で、昭和58年の調査では弥生時代の土壙墓が検出されています。

今回の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓と柱穴・土坑、平安時代の井戸、鎌倉時代の柱穴が検出されました。



方形周溝墓

かみ ひ じ もり の うえ  
邪馬台国時代のムラ

## 上比地森ノ上遺跡

宍粟市山崎町上比地

県道工事に伴いA・Bの2地区で実施しました。A地区では調査区の中央付近に集中して、弥生時代終りから古墳時代初めの竪穴住居跡4棟、平安時代前半の掘立柱建物跡2棟や溝群が検出されました。溝は古代の造成に伴うものと思われます。B地区からは弥生時代終りから古墳時代初めの竪穴住居跡8棟以上と掘立柱建物跡4棟、古墳時代後期の竪穴住居跡2棟以上、中世の掘立柱建物跡2棟が検出されました。



A地区全景



B地区全景



## 水田の下に眠る横穴式石室墳

ひがし さわ

## 東沢2号墳・3号墳

加古川市八幡町上西条

開墾によって姿を消していた6世紀の古墳です。  
石材がすべて抜き取られた2号墳の横穴式石室からはガラスや土製の小玉、耳環が出土しました。



2号墳の全景



小規模な掘立柱建物群

## 望理里(まがりのさと)の小集落

ひがし さわ なか

## 東沢中遺跡

加古川市八幡町上西条

台地の上から掘立柱建物跡6棟を発見しました。  
小規模な建物が集まった7世紀代の集落です。周辺は、『播磨国風土記』の望理里にあたり、遺跡は里を構成していた集落の一つであったと考えられます。

## 須恵器窯の新資料

てん のう ざん

## 天王山1号窯跡

加古川市八幡町上西条

東播磨南北道路建設に伴い発掘調査を行い、須恵器窯跡を1基検出しました。窯は北向きの谷の西斜面に造られ、盛土や谷の厚い土砂によって地下深くに埋もれていました。窯本体は後世に削られて、わずかに窯体の床面が残る程度です。

出土した遺物は、須恵器碗・こね鉢・小皿などの日常生活で用いる

食器のほか、瓦があります。出土した土器の形態的な特徴から窯の操業時期は平安時代後期と考えます。遺物量の少なさや熱による地面の変色状況をみると、窯の操業期間は短かったと考えられます。



窯跡内に残る土器片を記録中



天王山1号窯の全景

御食国淡路の製塩・官衙遺跡

ぐ ぞう  
九蔵遺跡

南あわじ市阿万東町

九蔵遺跡は、南あわじ市阿万東町に所在する集落遺跡です。県道（阿万バイパス－南淡路水仙ライン）改良事業に伴って発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代から近世の遺物が出土し、弥生時代前期から室町時代前半の遺構が検出されています。弥生時代は竪穴住居跡2棟と溝・土坑・柱穴が確認されています。竪穴住居跡の1棟は前期のもので特筆されます。古墳時代は、竪穴住居跡4棟と落ち込み・溝・土坑・柱穴を検出しています。竪穴住居跡はすべて後期のもので、残存状態が悪く、そのうち3棟は切り合っています。掘立柱建物跡に復元できそうな柱穴群も確認しています。奈良時代の遺構密度が最も高く、全域で検出しています。九蔵遺跡の中心となる時代です。時期は奈良時代でも後半のものが大半と思われます。掘立柱建物跡24棟・製塩炉跡3基と落ち込み・溝・土坑・柱穴を調査しています。平安時代後期から室町時代前期にかけては掘立柱建物跡20棟、井戸3基と落ち込み・溝・土坑・柱穴を確認しています。



調査区全景 掘立柱建物群

九蔵遺跡は、弥生時代から中世にかけて営まれていた集落遺跡です。奈良時代の遺構がその中心を占め、御食国と称された淡路を代表する遺跡になると思われます。

平城京出土の木簡には、淡路国三原郡阿麻郷から税金（調）として塩3斗を納めたことが記されています。その遺跡が九蔵遺跡であるとほぼ断定できる資料を得ました。製塩遺跡と官衙的な遺構群はそれを示すもので、出土した和同開珎の銀銭はそれを補強する資料になります。製塩遺構は8世紀後半に限られた遺構で、大型の掘り方を持つ掘立柱建物跡の官衙遺構も同時期です。平城京出土木簡は天平寶字5（761）年で遺跡の時期と合致しています。





遺跡遠景写真（南から）



地鎖遺構

その他、九蔵遺跡では和同開珎の銀銭以外にも銭貨が多く出土しており注目されます。皇朝十二銭の1つである延喜通寶が柱穴から出土しています。また、鎌倉時代の終わり頃の遺構から銭貨と土師器皿がセットとなった地鎖遺構を2ヶ所で検出しています。その中には五代十国時代の南漢で作られた乇亨重宝（初鑄917年）が1枚入っていました。全国でも数枚しか出土していない珍しい銭種です。隣接する北田遺跡では中世の遺構からですが、弥生時代の貨泉が出土しています。



鹹水溜め（濃い塩水を入れる土坑）



石敷炉



和同開珎（銀銭）



延喜通宝



乇亨重宝



棺材が残っていた中世の屋敷墓

## あ が ほ えき しゅう へん 英賀保駅周辺遺跡第4地点

姫路市苜編・町坪

今回の英賀保駅周辺遺跡第4地点の調査では、おもに縄文時代晩期から弥生時代中期、弥生時代後期、古墳時代、奈良時代、平安時代後半の遺構を検出しました。

弥生時代後期の溝群は、縄文時代晩期から弥生時代中期の溝や流路が埋没した後、掘られています。溝に伴って木と石を組み合わせた遺構を検出し、土器や木器のほかに銅鏃が出土しました。

平安時代の後半には集落が形成されており、掘立柱建物跡と溝、土坑、木棺墓を検出しました。掘立柱建物は、合計17棟以上を検出しました。



掘立柱建物跡と木棺墓

条里方向に建てられた掘立柱建物（2間以上×2間以上）の北側に位置する木棺墓を検出しました。

木棺墓

木棺墓は組合せ式の木棺で、たわんだ蓋板と側板・底板が残っていました。東西方向に長く、棺内の北西隅に須恵器碗が供えられていました。



銅鏃

弥生時代後期の溝の上層から出土しました。長さ4.0cm、幅1.1cm、厚さ0.4cm、重さ3.6g。



## 姿を現した一向宗の拠点

つか ぐち じょう  
塚口城跡

## 尼崎市塚口本町1丁目

塚口城は、一向宗塚口御坊（正玄寺）を中心に発展した寺内町がその起源です。厳しい戦国時代に至って、堀を巡らせ、土塁を盛り上げ、防備を固めて、城へと変わっていきました。

今回の調査では、2重の堀（外堀・内堀）や城の東西のコーナー部分を見つけることができました。

外堀の幅は約5m、内堀の幅は約5.5m、深さは、堀の外側から測ると外堀で60cm、内堀で90cm程度であったようです。今年度は外堀が北へと直角に曲がる部分（城の南西端）と、内堀が北へ直角に曲がる部分（南東端）を調査することができました。東西コーナーの間隔は約290mです。

堀の中からは丹波焼壺や中国製の白磁皿、漆碗や下駄、播鉢にこびりついた味噌などを掻き落とす木の篋＝切匙（せっかいーお節介の語源）、一石五輪塔などが見つかっています。

塚口城は、江戸時代に入ると戦いもなくなり、堀も半ば埋まって大半は田圃となっていたようです。そして、江戸時代後半に入ると残っていた土塁を崩し、堀は埋め立てられてしまいました。埋め立てた土砂の中からは大量の陶磁器が出土しています。

では、どうしてこの場所に城が築かれたのでしょうか。

地理学の先生に調査をお願いしたところ、塚口城はその大半が丘（段丘）の上であって、周囲を旧河道や谷、あるいは沖積地（川や洪水によって運ばれた土砂が堆積してできた地形）に囲まれていることが分かってきました。もともと塚口御坊のある寺内町は周囲より1.5m以上高かったと言う訳です。城の内側は硬い地盤＝更新世段丘上に乗っており、堀は崖下の土の柔らかい部分＝沖積層や旧河道上に巡らされていたようです。内堀には蛇行している部分があります。これはもともとあった小さな谷の凹みに沿って堀を巡らせたためと考えられます。

今は多くの建物が立ち並びアスファルトに覆われてしまった塚口城跡ですが、戦国時代には水田や湿地が広がる平野の中に小高い丘として突き出していました。堀と土塁を巡らせた姿は、遠く離れたところからでも非常に目立つ存在であったといえるでしょう。



外堀の西隅



蛇行する内堀



かろうじて残った内堀（東から）

## 平成17年度の主な発掘調査遺跡一覧 (No.20～34は出土品整理)

No.	遺 跡 名	所 在 地	事 業 名	調査の概要
1	加都遺跡	朝来市和田山町市御堂	一般国道483号北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路	古墳時代・中世の集落跡
2	内高山西古墳群	朝来市和田山町岡	一般国道483号北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路	古墳時代の墳墓
3	延吉遺跡	佐用郡佐用町延吉	中国横断自動車道姫路鳥取線	縄文時代・中世の集落
4	塚口城跡	尼崎市塚口本町	都市計画道路尼崎伊丹線立体交差事業	中世の城跡
5	東沢2号墳ほか	加古川市八幡町上西条	(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業	古墳時代の墳墓、古代の集落跡
6	粟津大年遺跡	加古川市加古川町粟津	加古川別府港線緊急街路整備事業	平安～中世の集落跡
7	天王山1号窯跡ほか	加古川市八幡町上西条	主要地方道加古川小野線(東播磨南北道路)改築事業	古墳時代の墳墓、平安時代の窯跡
8	曾我井・堂ノ元遺跡ほか	多可郡多可町中区曾我井	(国)427号交通円滑化事業	中世の寺院跡
9	吉田西向遺跡	三木市志染町吉田字西向	(主)三木三田線道路改築事業	中世の集落跡、窯跡
10	雲部車塚古墳	篠山市東本荘	(一)篠山丹波線 特定交通安全施設等整備事業	古墳時代の墳墓
11	門前遺跡	篠山市長安寺字門前	(国)176号交通安全施設等整備事業	中世の集落跡
12	白池遺跡ほか	洲本市五色町鳥飼上ほか	(一)鳥飼浦洲本線道路改良事業	中世の集落跡
13	鳥飼中瀬遺跡ほか	洲本市五色町鳥飼浦ほか	(一)鳥飼浦洲本線道路改良事業	
14	九蔵遺跡	南あわじ市阿万東町	(主)洲本南淡線道路改良事業	奈良時代の集落跡
15	神野大林古窯跡	加古川市神野町神野	県立新加古川病院(仮称)敷地造成事業	古墳時代の窯跡
16	大中遺跡・山之上遺跡	加古郡播磨町大中ほか	史跡整備事業	弥生時代・中世の集落跡
17	坂元遺跡	加古川市野口町坂元、野口	東播磨都市計画事業坂元・野口土地区画整理事業	弥生時代～中世の集落跡、古墳時代の埴輪窯など
18	英賀保駅周辺遺跡第4地点	姫路市苅編ほか	中播磨都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業	中世の集落跡
19	五反田遺跡ほか	淡路市山田	経営体育成基盤整備事業山田地区	中世の集落跡
20	神出窯跡群ほか	神戸市西区神出町田井	一般国道175号平野拡幅・神出バイパス事業	平安～鎌倉時代の窯跡ほか
21	横田遺跡・市辺遺跡ほか	丹波市氷上町横田・市辺ほか	一般国道483号北近畿豊岡自動車道春日和田山道路Ⅰ事業	弥生時代～中世の集落跡、奈良時代の官衙関連施設など
22	栗鹿遺跡ほか	朝来市山東町栗鹿ほか	一般国道483号北近畿豊岡自動車道春日和田山道路Ⅱ事業	弥生時代～中世の集落跡など
23	小犬丸(中谷廃寺)遺跡ほか	たつの市揖西町小犬丸ほか	山陽自動車道(新宮インターチェンジ)建設事業	白鳳～平安時代の寺院など
24	小阪田遺跡	伊丹市小阪田	大阪府道・兵庫県道高速大阪池田線(延伸部)建設	縄文時代～中世の集落跡
25	若王寺遺跡	尼崎市若王寺	電総研大阪研究開発交流センター整備事業	弥生～古墳時代の集落跡
26	篠山城三の丸	伊丹市伊丹	篠山郵便局簡易小増築工事	中世の城跡
27	伊丹郷町・有岡城跡	伊丹市伊丹	(主)伊丹停車場線道路改良工事	中世の城跡・近世の集落跡
28	美乃利遺跡Ⅱ	加古川市加古川町美乃利	広域基幹河川改修事業(一)別府川	弥生時代～中世の集落跡
29	豆腐町遺跡	姫路市豆腐町	JR山陽本線等連続立体交差事業	弥生時代～近世の集落跡
30	宮内堀脇遺跡	豊岡市出石町宮内	(一)町分久美浜線道路改良事業	室町時代の城下町武家屋敷跡
31	汁谷窯跡・汁谷遺跡	南あわじ市神代黒道	広域営農団地農道整備事業南淡路地区	古墳～飛鳥時代の窯跡・工房跡
32	岩屋遺跡ほか	伊丹市岩屋ほか	大阪国際空港周辺伊丹緑地整備事業	弥生時代～中世の流路・水利施設
33	吉田南遺跡	明石市北王子町	兵庫県立大学地域ケア開発研究所(仮称)新築工事	弥生時代末～古墳時代初の集落跡
34	堀山古墳群ほか	加西市綱引町字堀山	加西南産業団地造成事業	古墳時代の墳墓群

### 編 集 後 記

平成17年度に発掘調査した主要遺跡の速報をお届けします。すべてを紹介することができませんでしたが、ほかにも多くの遺跡を調査しました。

発掘調査終了後は、その記録をまとめた報告書作成のための出土品整理をおこないますが、発掘調査期間よりも多くの時間が必要となることが多く、一覧以外にも多くの遺跡について実施しました。今年度出土品整理作業を終えた遺跡の報告書は、21冊刊行しました。(K.K)